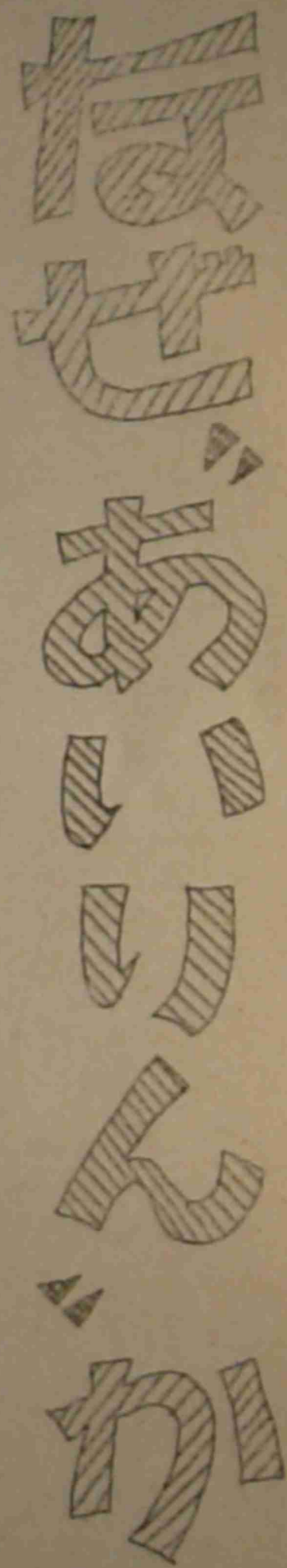


特集 についての まえがき



◎ 昭和四一年六月一五日

釜ヶ崎という呼び名を、マスコミや警察などが使わなくなったのは、昭和四一年の五月二八日に起こった暴動が、そもそもそのきっかけだ。

「釜ヶ崎」という呼び名を使わないようにしよう」と決められたのけ、正確に言えば、昭和四一年六月一五日のこと、大阪府公安委員会と、大阪府・市・府警の西成対策三者協議会で同時に決議されている。そして翌日の一六日の各新聞朝刊からバツタリと「釜ヶ崎」という活字が見られなくなった。

◎ 「暴動」が「騒動」に

た。しかし、「愛隣地区で起こる暴動は騒動」と言いかえることにします」とはただの一行も書いていない。六月一五日に、府警本部内に「愛隣地区治安対策委員会」が設置されたことは書いてあってもだ。
なぜ名前や言葉を言いかえたのか、変える必要があったのか、これ以上書かなくてもわかるだろう。

◎ 誰も使わない「愛隣」

地名などは自然発生的。伝統的なものの方が良いと考えるのが一般的だ。「西成」「霞町」「釜ヶ崎」そして「釜」。その時と場合その人間の古い新しいなどによっておれ違は使われたりする。

しかし「あいらん地区」という人間は住民（労働者以外も含めて）の中にはほとんどいない。特集のアンケート回答にもでてくるが「あいらん」という言葉の中にある偽善的なおいはもちろん、労働者の立場から提唱された呼び名ではないからだし、だいたいしら

釜ヶ崎が「愛隣」「あいらん」地区と言いかえられたかと思いと、同時に「暴動」のことが「騒動」と言いかえられるようになった。これも一六日の各新聞一せいのことだ。

昭和四一年五月暴動の以前に起こった暴動の際には、マスコミは暴動が起こった「原因」についていろいろと書いていた。悪い労働条件、生活環境などが、一番の暴動の原因で、いつでも、きっかけさえあれば暴動は起こるのだ、と。そして府や市のお役所は「町を明るくします」と決意表明をし、結局、暴動はくりかえされた。

△ △ △

昭和四一年六月一六日の各紙朝刊は、一せいに「釜ヶ崎——愛隣地区と改名」を報道し

じらしい。もちろん「あいらん」と決めたら間の中に、労働者の代表がいるかといえは、もちろん一人もいない。

◎ ここは天国「あいらん」？

誰も使いたがらない使われない「愛隣」「あいらん」という呼び方。じゃあなぜ「あいらん」なのか、ということを考えてみようというところで、この特集を組んでみた。

暴動実録、各新聞社や作家などに出したアンケートの回答、インタビューなど：
じっくり読んで、あなたなりに考えてみて御意見を寄せて下さい。

立ちんぼ人生味なもの
通天閣さえ立ちんぼさ
誰にえんりよがいるじゃなし
じっくりまって出直そう
ここは天国 ここは天国
ここは天国 あいらん
これじゃ歌にもならないよね。
やっぱし。